

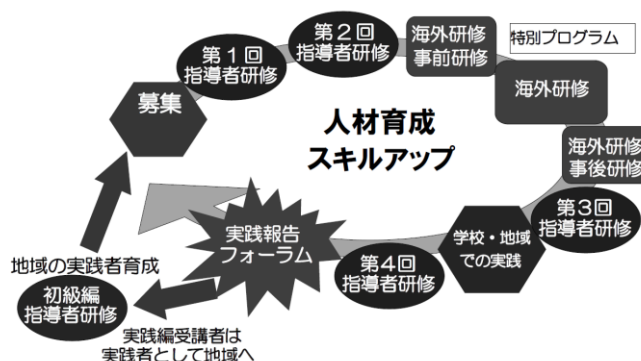
1. 教師海外研修の概要

● 目的とねらい

(1) 事業の目的・教師海外研修の目的

開発教育に熱心に取り組んでいる小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教師（以下「教師」という。）を対象に、指導者研修等の国内研修および JICA が支援している国への教師海外研修を有機的に組み合わせた上で実施し、各国の置かれている現状と日本との関係（国際協力を含む）への理解を深め、その成果を、次代を担う生徒の教育に役立てて頂くこと、また、研修参加後、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材を育成することを本事業の目的としている。

この事業の目的を踏まえた教師海外研修の目的を次のとおり設定している。



海外研修のテーマを「持続可能な開発」とし、教師の皆さんが、エルサルバドル・ガーナの暮らしや社会、JICA の協力活動等の体感を通じて、人類の多様性、心の同一性、問題点、課題を解決するために必要なことなどを調べ考え、その経験を共通の教材にし、日本の児童・生徒への開発教育・国際理解教育に活かしてもらうことを目的とする。

エルサルバドル・ガーナ現地研修の学びの視点

1. 訪問国に肯定的に出会う	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 世界の多様性を知り、多様な人やものと出会うこと・交流することの楽しさを伝える。 ◇ 多角的に肯定的に相手国と出会い、人の顔が見え、つながりを感じられるようになる。
2. 日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地球規模で進むグローバル化の恩恵と課題を理解し、日本とエルサルバドル・ガーナとのつながりに気づき、つながりを築く。 ◇ 国や人の多様性だけではなく、共通するものがあること（同一性）を理解する。
3. 共に考え・共に越える共通の課題の解決をめざす	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 相手を知ることで自国（自分）をふりかえり、互いの誇りや課題を確認する。 ◇ 共に学びあい、知り、考え、気づき、よりよい未来を共に築く入り口を提供する。

(2) 開発教育指導者研修（実践編）全体のねらい

教師海外研修は、JICA 中部が行う開発教育支援事業のうち、下記内容の「開発教育指導者研修（実践編）」（以下「指導者研修」という。）の特別プログラムとして位置づけ、実施するものである。

教師海外研修受講者は、全4回の指導者研修および開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2016（以下、実践報告フォーラム2016）に参加し、エルサルバドルやガーナで得たものを同研修にも還元し、相互に学び合うことをねらいとしている。

テーマ「ESD（持続可能な開発のための教育）とグローバル人材」

- 開発教育・国際理解教育の目的・内容・進め方と、ESDを始めとする他の教育との関連性を理解する。
- 「知り・考え・気づく」場の提供と、「自己肯定感」「コミュニケーション力」「参加・協力」の力を育てることを通して、人の行動変容を支える「参加型」についての理解を深め、習熟する。
- 人がよりよく学び、よりよく変わることに寄り添う「ファシリテーターの役割」とそのための手立てを確認し、習熟する
- 3回までに学んだことを基に、各自の現場で開発教育・国際理解教育のプログラムを実践し、その成果と課題を第4回に持ち寄り共有し、よりよい質の教育（BQOE[※]）につなぐ。
- 1年間に及ぶ本研修の成果を、仲間と共に一般の人々に向けてフォーラムで発表することを通して、次なる担い手を増やし、「学びの好循環」を作る。

※BQOE…Better Quality of Education

◇ 第1回：『開発教育・国際理解教育のめざすもの』

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的をふりかえり、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② グローバル化した世界の現状と、当該教育の必要性を確認・共有する。
- ③ 当該教育が、価値観を育てる教育であること、行動変容を支える教育であること、そのための参加型の教育であることについての理解を深める。

◇ 第2回：『開発教育・国際理解教育にできること』

- ① グローバル 이슈を自分事として捉え、具体的な行動につなぐための「学び方」を学ぶ。
- ② 「参加型の学び」は、自分、他者、社会に関わる力を育てる機会となることを体験的に確認する。
- ③ 持続可能な社会づくりに役立つ価値観、育てたい力、必要な情報についてふりかえる。

◇ 第3回：『開発教育・国際理解教育のすすめかた』

- ① 「流れのあるプログラム」とは何か、これまでの研修を元にふりかえり、その作り方を学ぶ。
- ② ねらい+内容+手法の組み合わせであるアクティビティについて理解し、その進め方を習熟する。
- ③ 参加と対話を引き出し、学び変化する場に寄り添うファシリテーターと参加型のポイントを確認する。

◇ 第4回：『開発教育・国際理解教育をつなげよう』

- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供し、次へとつなぐ準備を行う。

◇ 実践報告フォーラム2016『ヒントが見つかる！仲間に出会える！』

- ① 【受講者】 実践報告、モデルプログラムのファシリテーターと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ② 【参加者】 実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③ 【主催者】 国際理解教育・開発教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

● 募集と研修受講者

(1) 応募資格と参加条件

①～③を募集資格とし、④～⑪をすべて満たす者を参加資格とした。

- ① 応募および研修参加時点で愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校の教員または教育委員会の指導主事等であること。
- ② 所属する学校の校長もしくは教頭（教育委員会であれば所属長）の推薦があること。
- ③ 原則、JICA が実施している教師海外研修、ボランティア、専門家、国際協力レポーター（ODA 民間モニター）等 JICA から海外に派遣された経験がないこと。
- ④ 教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、同研修の実施および以後 JICA が実施する開発教育支援事業に協力可能であること。
- ⑤ 授業やクラブ活動で開発教育を実践していること、また今後実践する予定にあること。
- ⑥ 国内で実施される研修・説明会および海外研修の全行程に参加可能であること。
- ⑦ 派遣国の事情（道路状況や衛生環境等）を勘案した上で、全研修行程に参加するに耐える健康状態であること。
- ⑧ 帰国後、所定の期日内に海外研修報告書を提出すること、また本研修の定めた期間内に所属校において授業実践を行い当該授業の実践報告書を提出すること、且つこれら提出物を報告書冊子や JICA ウェブサイトなどで一般公開されることに同意すること。
- ⑨ 本研修の事前および事後連絡における効率化のため、パソコンメールアドレスでの連絡が可能なこと。
- ⑩ 参加者メーリングリストでの情報共有に賛同いただけること。
- ⑪ ガーナ研修の受講者は、出発までに黄熱病ワクチンを接種可能であること。

(2) 選考

書類審査および面接審査を行い、最終選考の結果、受講者（エルサルバドル 9 名、ガーナ 10 名）を決定した。

(3) 研修受講者

◇同行者を除く 19 名（エルサルバドル 9 名、ガーナ 10 名）の属性

{	性別：女性 12 名、男性 7 名
	年代：20 代 7 名、30 代 8 名、40 代 2 名、50 代 2 名
	地域：愛知 12 名、岐阜 3 名、三重 2 名、静岡 2 名
	校種：小学校 9 名、中学校 4 名、高等学校 4 名、特別支援学校 2 名

エルサルバドル派遣受講者および同行者

No.	名前	所属先	教科等	地域
1	伊藤篤志	愛知県立名古屋特別支援学校	保健体育	愛知
2	大島風花	名古屋市立表山小学校	6年	愛知
3	駒谷奈津	桑名市立久米小学校	4年	三重
4	吹田沙織	学校法人エスコラピオス学園 海星中学・高等学校	高校2年 家庭	三重
5	鈴木理恵	愛知県立一色高等学校	外国語	愛知
6	田中真弘	愛知県立瑞陵高等学校	定時制2-4年 英語、総合	愛知
7	中川朋子	名古屋市立稲葉地小学校	6年	愛知
8	野村佳世	大垣市立上石津中学校	社会	岐阜
9	樋口耕平	愛知県立半田高等学校	英語	愛知
10	古藪 真紀子	JICA中部 市民参加協力課	業務調整	愛知
11	伴 和子	NIED・国際理解教育センター	ファシリテート	三重